81 その他

現場付近の近隣住民へ現場新聞の作成・配布

長野県土木施工管理技士会
株式会社　塩川組
上　原　　瀬　那

1．はじめに

工事概要

⑴　工 事 名：令和元年度　社会資本整備総合交付金（街路）工事

⑵　発 注 者：長野県　長野建設事務所

⑶　工事場所：（都）高田若槻線　長野市
桐原～吉田２工区

⑷　工　　期：令和元年10月25日～
令和３年３月26日

2．現場における問題点

本工事は、SBC通りと北長野通りを結ぶ道路築造工事である。施工箇所は市街地であり、現場付近には、近隣住民宅や、コンビニエンスストア等が多く混在しており、現場には近隣住民の方の出入りが多くあった。また、現場では我々塩川組以外に複数社が同時期に施工を行っている状況であった。そのため、工事が始まっていくと近隣住民の方が現場に立ち入ることができなくなってしまうため、現場の状況等が把握しづらくなってしまっていた。工事を円滑に進めるには、近隣住民の方が工事の進捗状況などをご理解いただいていたほうがいいと考えた。そこで講じた工夫等を述べる。

3．工夫・改善点と適用結果

現場新聞の作成・配布

図－１　現場新聞

問題点で述べた工夫・改善点として、**図－１**の現場新聞の作成・配布を行った。

現場新聞の内容として、まず建設現場の紹介を行った。安全掲示板、施工機械、機器の用途等の

説明を記載した。我々作業従事者であれば、上記に挙げたものが実際何に使用し、どんな役割を果たすかなど当たり前のように理解しているが、近隣住民の方は、日頃から稼働している現場を見て、初めて目にする方も多いと考えた。そこで写真と一緒に説明文を記載することにより、実際に現場を見ていただいた際に、より建設現場をご理解いただき身近に感じてもらえたと思う。

また、現場付近にはお子さんのいるご家庭もあり、高齢化が進んでいる建設業とって、興味を示してもらえる、いいきっかけになったのではないかと思っている。

次に、現場平面図を利用し、そこに施工箇所、施工時期、道路規制内容など分かりやすく色分けし記載した。また、当社以外で施工を行っている業者様の今後の施工予定も一緒に記載することにより、より分かりやすく工事の進捗具合をご理解いただけたと思う。施工箇所や道路規制の変更がある場合は、地元区を通じて各業者が工事案内の配布を行っていたが、月初めに現場新聞にて早めに周知することにより、道路規制等の変更の際に、近隣住民の方が混乱することなくスムーズに行うことができた。

また、道路規制に伴い仮駐車場の設置を行った際にも、現場新聞を通じて何台分の駐車スペースを確保しなければならないかと時間に余裕をもって把握、準備することができ、地元区の皆様からご不満等なく施工できた。

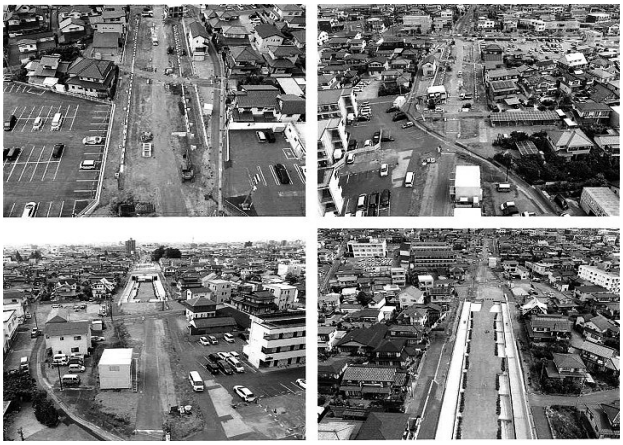

図-２　ドローン空撮

次に、月に一度当社の保有のドローンを使用し、**図-１**、**図-２**のように現場空撮を行った。

問題点でも挙げた通り、工事が進捗するにしたがって道路規制の範囲も増え、近隣住民の方が現場全体の進捗状況等を把握することが困難になっていた。そこで上記に記載した通り、月に一度、現場全体が分かるような現場空撮を行い、現場新聞に載せた。空撮することによって、現場全体が一目でわかるので、先月度の現場新聞と見比べてもらうと現場の進捗状況がとても分かりやすく地元区からも好評の声をいただけた。

４．おわりに

今回、施工させて頂いた現場は、市街地であり、現場付近には数多くの住宅、コンビニエンスストアが混在していた。近隣住民の方には、日頃から工事に伴う騒音や振動、住宅への出入りに関して、ご迷惑をおかけしていた。工事を円滑にスムーズに進めるためには、地元区の皆様とのコミュニケーションや、工事対するご理解とご協力が一番重要であった。

現場新聞を作成・配布することにより、地元区の皆様から好評の意見を頂けると同時に、工事に対するご意見やご不満等も聞くことができ、すぐに対処することができた。地元区の皆様のご理解とご協力に大変感謝している。

今後も、このような市街地に限らず、現場新聞を作成・配布していき、地元区の皆様に、工事現場をより身近に感じてもらい、工事対するご理解とご協力を促していきたい。